

今月の特集関連本

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート(p.910)にご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



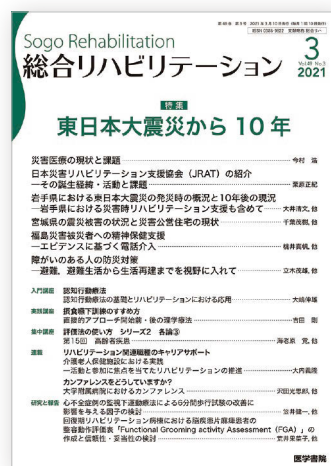
在宅医療カレッジ

地域共生社会を支える多職種の学び 21 講

佐々木 淳＝編

定価 2,200 円／A5 判・264 頁／医学書院／2018

首都圏最大級の在宅医療ネットワーク 医療法人社団悠翔会が提供する、医療・介護の多職種のための学びのプラットフォーム「在宅医療カレッジ」。多方面で活躍するトップランナーが「教授」として登壇し、満員続きの人気講義を精選して再現！（2015～2017 年開催分）Facebook1 万人を超えるメンバー、そして地域包括ケアを実現し、患者・当事者と共に生きる社会で働き続けたい全国の専門職に贈ります。



『総合リハビリテーション』2021 年 3 月号 (Vol.49 No.3) 東日本大震災から 10 年

定価 2,530 円／B5 判・112 頁／医学書院／2021

東日本大震災から 10 年、本特集は 2021 年 1 月の新型コロナウイルス感染症による 2 回目の緊急事態宣言下において編まれた。この 10 年間、障害のある方々が日常生活や社会生活を取り戻すためにどのような支援を必要としたかの記録から、「防ぎえた生活機能低下」を考える。また、どのような支援が現状必要なのかを提起する。



家でのこと

訪問看護で出会う 13 の珠玉の物語

高橋恵子＝著

定価 1,540 円／A5 判・128 頁／医学書院／2021

雑誌『訪問看護と介護』で大好評の連載まんが「家でのこと」が単行本に！新たに新作 3 本を収載し、読み応え十分。訪問看護の現場で出会う 13 の感動の物語を、鮮やかな言葉と絵で描き綴った。綿密な取材と作者の経験から生まれたストーリーは、在宅医療の魅力を伝えるとともに、そこに映し出される倫理問題や社会問題を考えるきっかけにもなる。



内科救急で使える!

Point-of-Care 超音波ベーシック

[Web 動画付]

亀田 徹=著

定価 4,950 円/B5 判・234 頁/医学書院/2019

本特集にてご執筆 (p.851) の亀田徹先生が「POCUS (Point-of-Care 超音波)」の基本を、ウェブ動画 243 本とともに 1 冊にまとめた。本誌連載からの書籍化。

臨床医が診断推論に基づき観察部位を絞って行う超音波検査として、いま注目を集めている POCUS の、内科救急でよくみる腹部・循環器・呼吸器疾患への活用法をエビデンスに基づいてわかりやすく解説した。身体所見と POCUS をどう組み合わせて用いるかなど、聴診器のように日常的に超音波を活用するためのノウハウが詰まった 1 冊。



レジデントのための感染症診療マニュアル

第4版

青木 眞=著

定価 13,200 円/A5 判・1,730 頁/医学書院/2020

本特集にてご執筆 (p.856) の小野正博先生が、在宅医療を含む感染症診療の原則を学んだ 1 冊。

感染症診療全般を網羅し、読み継がれてきたバイブルの改訂第 4 版。病原の同定と適切な薬剤選択を基本に、臨床の実践知が学べる。トピックとして新型コロナウイルス感染症、ゾーニング、薬剤耐性菌 (AMR) 対策、最新の検査法などを収載。一線で活躍するエキスパートらの臨床知を凝縮した。



《レジデントマニュアル》

感染症レジデントマニュアル

第2版

藤本卓司=著

定価 4,950 円/B6 変判・496 頁/医学書院/2013

小野正博先生 (p.856) ご推薦のもう 1 冊。在宅医療を含む臨床現場で活躍する医師に広くお勧めする“感染症の定本”。

レジデントが、いま直面している感染症に対し、まさに診療で役立つ知識をまとめたマニュアル。いつどうやって起炎菌を判断し、抗菌薬は何をどのくらい使うのか? 使うにあたっての注意事項は? 変更・終了の規準は? 曖昧な判断で漫然と使われがちな抗菌薬を正しく使うための知識と、国際標準に即した考え方、著者のノウハウが満載。



誤嚥性肺炎の予防とケア

7つの多面的アプローチをはじめよう

前田圭介＝著

定価 2,640 円／B5 判・144 頁／医学書院／2017

超高齢社会で増加の一途をたどる誤嚥性肺炎。誤嚥性肺炎を予防し、最良の治療効果をもたらすために、ケア提供者が行うべきことは何か？ 本書では、3つの柱(口腔ケア・リハビリテーション・栄養管理)+3つの工夫(食形態・ポジショニング・薬剤)+食事介助技術から構成される7つの多面的アプローチを紹介。「多職種連携」の肝がみえてくる1冊。



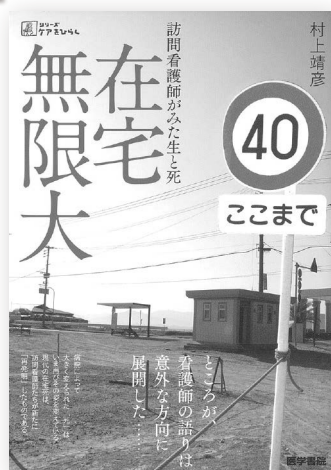
Advance Care Planning のエビデンス

何がどこまでわかっているのか？

森 雅紀、森田達也＝著

定価 2,640 円／B5 判・204 頁／医学書院／2020

「人生の最終段階の医療・ケアについて、本人と家族、医療者が繰り返し話し合うプロセス」=ACP(p.828)。でも、不確実な将来を話し合うことは、誰にとっても難しい。どうやって話し合いのきっかけをつくるか、どうすれば患者と家族の希望に添った医療・ケアを提供できるか、国内外で積み重ねられてきたエビデンスが、ACPを深めるためのヒントを与えてくれる。患者と家族の幸せにつながるACP実践のために、知っておきたいことがある！



《シリーズ ケアをひらく》

在宅無限大

訪問看護師がみた生と死

村上靖彦＝著

定価 2,200 円／A5 判・264 頁／医学書院／2018

病院によって大きく変えられた「死」は、いま再びその姿を変えている。現在の在宅死は、かつてあった看取りの文化を復活させたものではない。先端医療が組み込まれた「家」という未曾有の環境のなかで、訪問看護師たちが地道に「再発見」したものである。著者は並外れた知的肺活量で、訪問看護師の語りを生け捕りにし、在宅医療が本来もっているポテンシャルが言語化された。